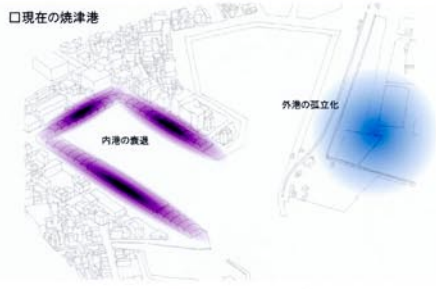


焼津港再生への提案

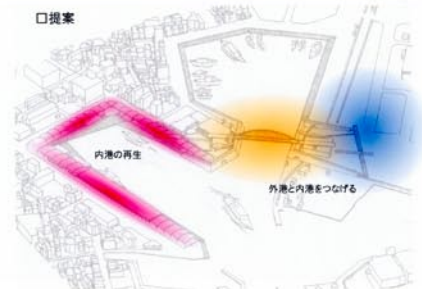
□現在の焼津港



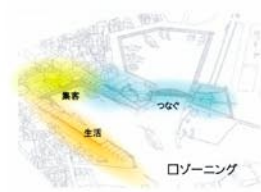
□提案

漁業と市民をつなげる
内港と内港の間に橋を架けて
シャークの舟をつきつけ、漁業と市民
をつなげる。

回魚市場という資源の活用
回魚市場を再生することで、
周辺市街地の活性化を促す。



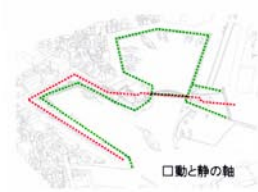
Plan設計KEYWORDess



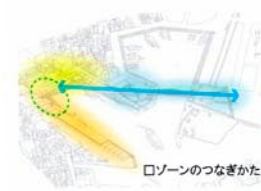
生活
市街地に最も近い位置に市民の
生活に馴染む機能配置を配置。
また利用者がゾーニングは自然。
高層
ゾーニングの利用者も利用できる
ようにゾーニングは自然に
配置。
つなぐ
内港と外港をつなぐゾーニング。
機能は明確です。利用者がゾー
ニングは自然。



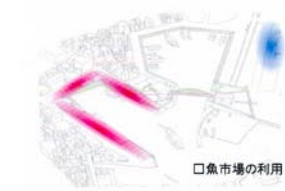
R線
焼津港からは徒歩5分。
上下線とも車道として設計され、
電車が走るのに利用者が多い。
観光バス専用駐車場
観光バス専用駐車場の設計で観光
バスは自然に利用者が多い
見込める。
自家用車専用駐車場
観光バス専用駐車場の設計で観光
バスは自然に利用者が多い
見込める。



R線
R線は、R線、R線、
歩いて楽しい
人が移動する
静の軸
静の軸は、R線、
歩いて楽しい
人が移動する



機能をつなぐ
高層商業と生活商業のつなが
る機能をつなぐゾーニングの
配置。
風景をつなぐ
島の上空に高層ゾーニングの
時に、機能をつなぐゾーニング
の配置を一緒に考える。



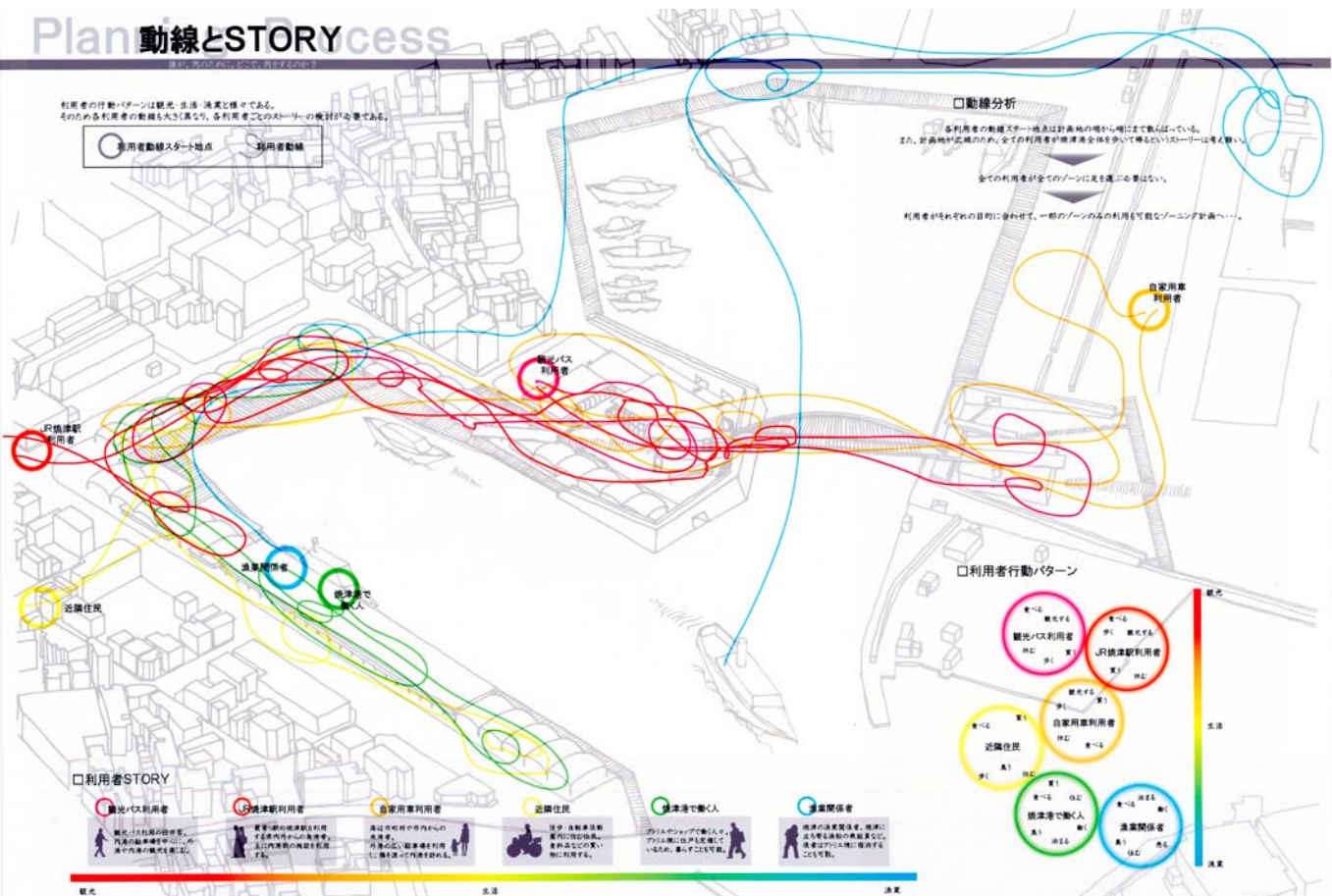
内港回魚市場
現在は使われていない内港の回魚
市場を再生して観光バス専用
駐車場の配置を自然に利用
者が多い見込める。
外港回魚市場
現在は使われていない外港の回魚
市場を再生して観光バス専用
駐車場の配置を自然に利用
者が多い見込める。



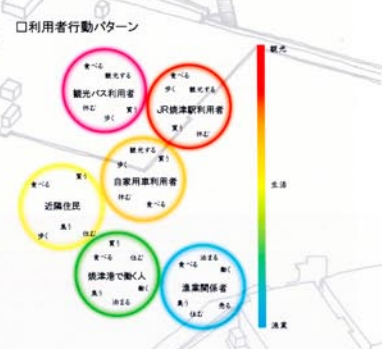
オープン
島の中心はオープン
利用者と空間をつなぐこと
で活性化させる
クローズ
島の中心はオープン

Plan動線とSTORYcess

利用者の行動パターンは観光・生活・漁業と様々である。
そのため各利用者の動線が大きく異なる。各利用者ごとのストーリーの設計が必要である。

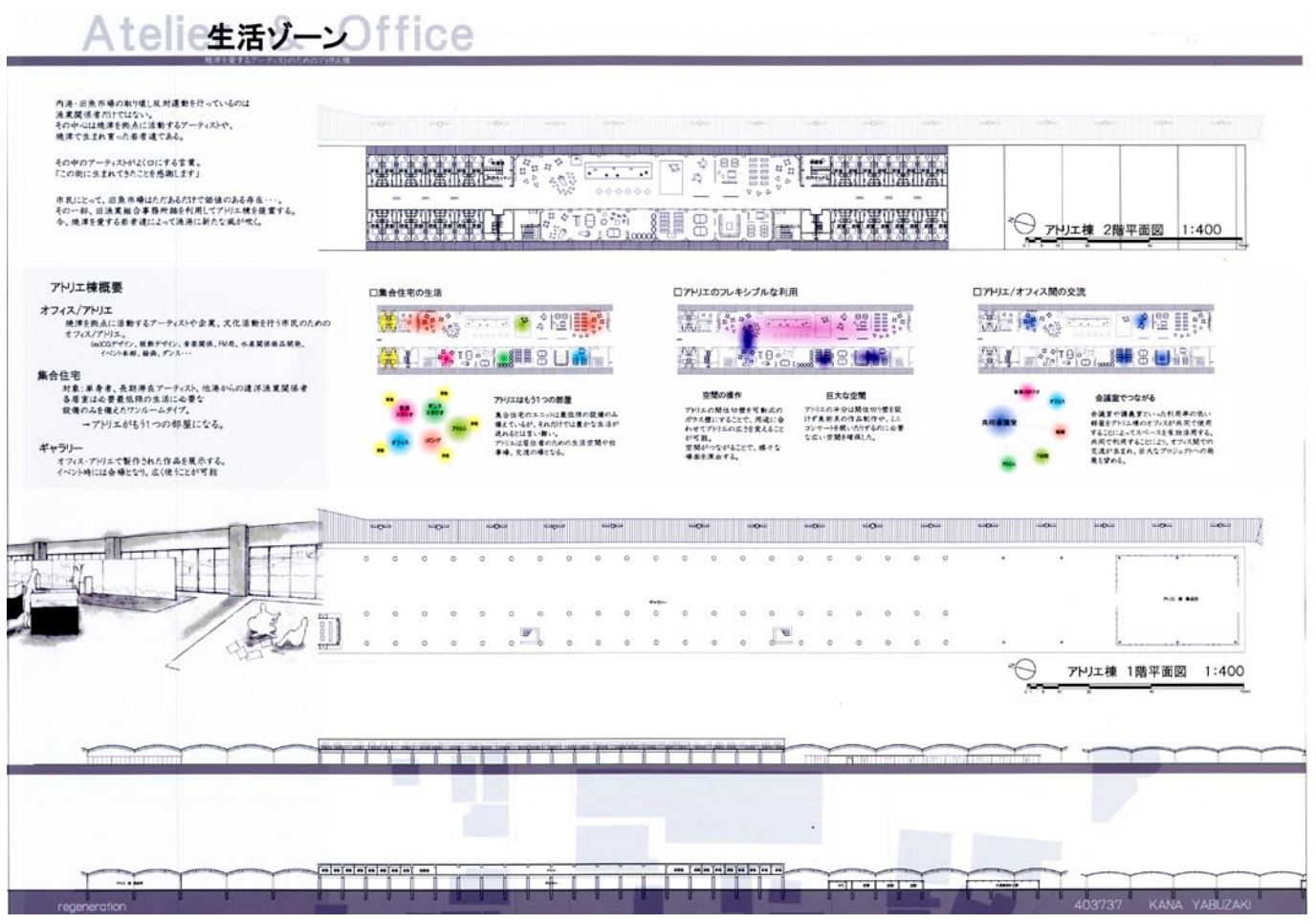
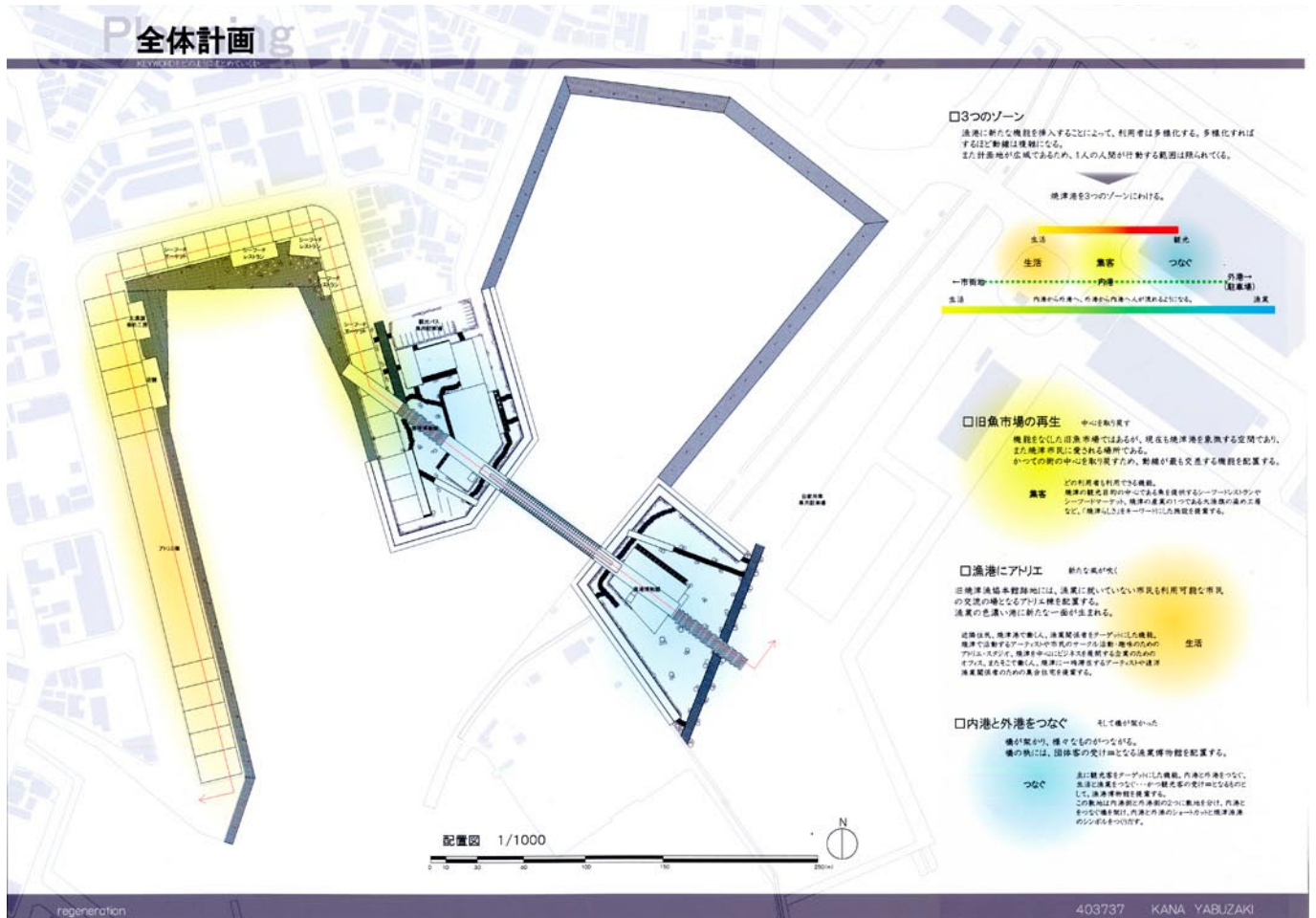


動線分析
各利用者の動線スタート地点は計画的に埋められていない。
また、計画地が広域のため全ての利用者が計画地全体を歩いて歩くというストーリーは考えにくい。
全ての利用者が全てのゾーニングに見えようとする必要はない。
利用者がそれぞれの目的に合わせて、一部のゾーニングのみを利用可能なゾーニング計画が必要。



利用者STORY

- 観光バス利用者**
観光バス利用者の動線。内港の回魚市場を中心に、島の中心をめぐり観光客が利用する。
- R線利用者**
R線の回魚市場を利用。島の中心をめぐり観光客が利用する。
- 自家用車利用者**
高層商業や生活商業のつながる機能をつなぐゾーニングを利用。また内港の回魚市場を利用する。
- 近隣住民**
徒歩・自転車・自転車利用。島の中心をめぐり観光客が利用する。
- 焼津港で働く人**
R線の回魚市場を利用。島の中心をめぐり観光客が利用する。
- 漁業関係者**
焼津の漁業関係者。焼津の漁業関係者。焼津の漁業関係者。焼津の漁業関係者。



Gen Plaza 集客ゾーン

旧魚市場跡の再生プロジェクト

旧魚市場では市民と漁業をつなぐイベントが年2回最大に行われている。
 焼津市在住のアートスによるイベントも開催し、アーティストも毎月のように開かれていく。

ととと保たれていた場所、その面影が……
 旧魚市場には市民が集まり、市民によって賑わい可観性が豊かだった。

イベントが中心になる場所へ、人々が集って集まる場所へ……
 最も焼津らしさのPRである機能を集めた広場がこの地に開かれる。

広場 平面図 1:400

広場概要

大漁漁業の工房
 焼津の伝統工芸である大漁漁のデザイン・染め、大漁漁の染め技術を利用した装飾のデザイン・製作を行う。製作過程を一般に公開する。

店舗
 大漁漁染め工房で製作された商品や焼津の産品等の販売店舗、シーフードカフェ等を設置。

シーフードマーケット
 焼津漁港で水揚げされた魚を一般客向けに販売。旧魚市場の屋根の下で、可動式の露店が並ぶ。

イベント広場
 イベントを中心に広場。シーフードマーケットが併設して広げたいことも可能。

シーフードレストラン
 焼津漁港で水揚げされた魚を食することができる。天気の良い日は外での食事も可能である。

イベントとの関わり

シーフードレストラン
 イベント開催時

イベント開催時
 イベント開催時

regeneration

403737 KANA YABUZAKI

Museum つなぐゾーン Bridge

大漁漁の歴史を伝える博物館

立平面図 1/400

博物館概要

展示棟
 焼津の漁業、焼津漁の交通、第五福龍丸核爆事件、種別、大漁漁等実物を中心に展示。
 体験室では海にでていく活動と連絡をとることが可能。

収蔵庫
 旧魚市場の一部を利用する。イベント時には内海に向けて開き、開放的な空間になる。

体験工房
 大漁漁デザイン・染め、製茶、魚料理、絵手紙、ハチマキ製作などが体験できる。平屋空間を利用するため、自由な活動が可能である。

管理・研究棟
 事務室、会議室、管理部門、漁業に関する研究を行う研究室を設け、また受付カウンターやミュージアムショップ等も備えており、来訪者の情報拠点である。

展望台
 内海と外海をつなぐ橋から焼津漁港を眺め、3つの漁港を眺めることが可能である。焼津漁港全体を見渡す場所であり、焼津漁港の現状を一目で知ることが出来る。

現在焼津にある博物館は、漁業の歴史を色濃く展示したものである。
 それを踏襲するわけではない。
 しかし、ガラスケースの中に収められた展示品にリアリティはない。
 博物館を訪れる子供達の表情を眺めながら、ある漁師は言う。
 『現代の子供達には足りないのは知識とドラマだ』
 リアルに暮らすドラマはこの世にない。ドラマへ感情が喚起された。

漁港博物館 1階平面図 1/400

regeneration

403737 KANA YABUZAKI

